

第 3 号刊行にあたって

ここに、『映画で学ぶ《教育学》』第 3 号を刊行する。

本誌は、教育学を専攻する大学教員と大学院生が、互いの論考に刺激を受けつつ、推敲を繰り返して完成したものである。教師を目指す学生諸子、日々子どもたちと向き合い教育実践をされている教員の皆様、そして教育学に関心を持つすべての同志に向けて、本誌をお届けする。

今号には、洋画 11 本、邦画 4 本の計 15 本の映画の情報と論考を収録することができた。創刊号から数えると、これまでに 55 の視聴覚資料を取り上げたことになる。第 3 号もまた、すべての論考が執筆者の問題関心や専門分野を反映したオリジナルティに溢れた考察となっている。コメディ映画が保育の真髄を伝え、連発されるブラックジョークが人間の尊厳と平等の証となり、カエルの卵を探す冒険が地球環境の持続可能性を想起させる…。教育学の視点から見つめ直すという行為は、まるで作品の面白さを倍増させてしまう魔法のようだ。特に本号での新たな視点として、第二次世界大戦中の映画についての歴史的考察、授業内の取り組みを描いた作品についての教科教育の視点からの考察が挙げられる。それぞれの専門性を生かし、本誌ではこれまでになかった地平を開拓してくれた。また、今号で取り上げた映画には、有名な作品も比較的多い。本誌の考察により、かつて鑑賞した作品の新たな一面に気づいて頂けるだろうと期待している。

編集作業を通して痛感しているのは、何かを主張したいという熱意と、それが生み出す力の素晴らしさである。大学院に入学したばかりの学生たちにとって、本誌の論考は多くの場合、人生で初めての原稿である。とりわけ留学生にとっては、外国語で書く原稿であり、執筆は困難を極める。しかし、何十回と修正してでも、伝えたい強い思いがある。その思いは、すべての頁に感じ取って頂けるだろう。

今回もまた、DVD 販売元及びご担当の皆様には多くのご支援を頂いた。画像掲載の許諾、ジャケット写真や場面写真の提供を受けてはじめて、このような鮮やかな冊子が完成する。本誌完成のためにご尽力下さった皆様に、心より感謝申し上げます。なお、記載されている DVD の価格や発売日等の情報は画像掲載の条件であり、情報が不揃いである点をご寛恕願う他ない。

読者の皆様からの忌憚のないご意見、ご批判を頂戴し、さらなる研究の発展を目指したい。

2013 年 12 月

代表 荒川 麻里